

あきる野



冬起こし

今年もあと少しです。みなさん、今年はどのような年でしたか。いいことも悪いこともたくさんあったかもしれませんが、いずれにしても無事に終わるだけでも嬉しいですね。

では、今年最後の森林レンジャー新聞を送りたいと思いますので、自然のファンの皆様、そうではない皆様も、また来年もよろしくお願いします！

2025年の振り返り

今年は、昨年に引き続き「猛暑」の年という印象が強いでしょう。強風の日も多く、気候が荒々しくなっていることが実感できる一年でした。

この「猛暑」は自然を変えている一因ですが、気になるのは夏の猛暑だけでなく、暖冬や季節外れの変化です。クマの出没やナラ枯れなどは、間接的にその変化の結果でもあるといえます。

そして、少しずつ変わってきている近年の自然では、南方系の生き物が徐々に増えています。その中には、今春から確認するようになり、見かける機会が増えている外来種のムシクロツバメシジミ（森林レンジャー新聞vol.170）や、今秋に初めて確認したイシガケチョウ（写真）がいます。



9月、カエデ類の葉っぱに止まったイシガケチョウ

イシガケチョウは、日本西部から南部で広く分布する蝶で、近年は他の複数の南方系の種と同様、関東地方でも増えつつあります。

他にも、ヤイロチョウやクマゼミなど、市内で確認できる機会が多くなりました。

一方、前シーズンの野鳥の飛来状況などを見ますと、冬と夏はそれぞれ、多くの種の渡り鳥が少なかったのですが、今秋は、定番の冬鳥が例年通りに飛来し、種類によっては、個体数がやや多いように感じられます。そのことから、今冬は「寒冬」になる可能性が考えられます。

今年は、温かく、台風の影響もほとんどなかったあきる野。平和にも思えましたが、冬こそやはり、寒さは嫌でも、冬らしくある程度の寒さと積雪があった方が来年の自然はより安定で豊かになるかもしれませんね。

よく見れば、発見



そして、冬到来です！

冬は、楽しみが少ないと思う方もいるかもしれませんが、実は、適切な装備をすれば楽しめる自然は非常に多いのです。

冬といえば、河原散歩に最適なのでは？冬の太陽の優しい日差しを浴びながらの散策は最高です。

例えば、そういう日に秋川で鳥を探していたら、いつもと違う「ツグミ」がいました。ツグミは、代表的な冬鳥で、民家付近でもよく見られるため、おそらく皆さんも見かけたことがあると思います。

その普通のツグミとは別に、他のツグミの仲間がいます。シロハラやアカハラもよく知られていますが、この時に見かけたのはハチジョウツグミです。日本では、数が少ない冬鳥で、最新の日本鳥類目録(第8版)では、ツグミの「亜種」から、独立したツグミの仲間の「種」に変更されました。特徴は、ツグミによく似ており、全体的にかすんだ色の地味なツグミに見えることがありますが、細かい模様や色は少し異なります。



いつもと違うツグミ、ハチジョウツグミの背中



ジョウビタキ



メジロ



ツグミ

初めて見たハチジョウツグミ。一回限りの出会いは、寒冬の日だからこそかもしれません。一方、冬の常連である、ジョウビタキやメジロ、ツグミなどは、少し寂しげに感じられるこの時季をにぎやかにしてくれますので、かなりありがたい存在ではないでしょうか。

冬山情報

やはり、冬は河原散歩にふさわしい時期ですが、天気の良い日の山歩きも最高ですね。

あきる野の山は低山で、基本的に冬も閉鎖されることはありませんが、現在、あきる野で注意が必要なコースをお知らせします。

①ハイキングコースや林道の通行止め: 戸倉地区の入山峠～トツキリ場の区間は森林整備のため、令和9年8月13日(予定)まで通行止めとなっています。日向峰コース(沢渡橋～金剛の滝・小和田分岐)も、森林整備のため、当分の間通行止めです。また、金比羅尾根の星竹林道は林道工事のため、歩行者を含めて令和8年3月末(予定)まで通行止めとなっています。

②ハイキングコースの通行注意: 近年のナラ枯れの影響で、立ち枯れ木などの危険木が多く発生しています。次のコースでは特に本数が多いため、十分に注意が必要です: 馬頭刈尾根、サルギ尾根、菅生草花丘陵や秋川丘陵のコース。



また、枯れ木は、雨や雪の影響以外にも、強風や凍結・解凍の繰り返しにより、落枝などが発生しやすいです。条件にあわせて危険度の高いコースでの山歩きを控えましょう。

